

水たま

通巻 第26号



高良の秋

ご挨拶

宮司 竹間 宗磨

この夏は記録的な高温の猛暑日が続き、大変厳しい季節の中、富士山の世界文化遺産登録や、二〇二〇年五輪招致では東京開催が決定されるなど、明るい話題が注目されました。

高良大社では八月三十一日「高良大社総代会」が再編され、発会いたしました。当大社のご由来と慣習に倣い、二十二名の篤志の方々にご就任いただきました。心から歓迎申し上げます。ご神徳益々発揚のためご高誼を賜り、氏子崇敬者の牽引役としてご協力をお願い申し上げます。

そして今、五穀豊穰総りの秋を迎えようとしています。高良大社では、十月九日から三日間、「高良山くんち」こと例大祭が斎行されます。多種多様な祭事を行います。「くんち」は「供日」と漢字を当て、天地の恵みを受けた沢山の作物や得物を神様に供える意と解されています。収穫をよるこび、神様に海川山野の恵みを種々供えて歓喜騰躍して感謝する祭祀といわれております。その悦びの表現や供物をするることによって神威が増し、神様の助力を人々が蒙るとされています。

また「御九日」と記し、高良の大神様をご鎮座された古代へのび、ご神慮を仰ぎ寿ぐ祭礼です。

十一月二十三日には新嘗祭が例大祭と同様に大祭式で斎行されます。新嘗祭はその年に新しく収穫した五穀米を始め種々の物を献じ、収穫に感謝し、天皇皇后両陛下を始め皇室のご安泰弥栄を、国家国民の平穏無事を祈る祭礼であります。

本年は、万古不易の嘉例である「お伊勢さま」の二十年に一度の遷宮の年です。十月二日に皇大神宮、同五日に豊受大神宮で夫々「遷御の儀」が厳かに斎行されます。

神殿は檜の香り満ち充ちて木肌の輝き清々しく、誠に慶賀にたえません。伝統を受け継ぐ超一流の技術者の手による御装束や御宝物も新調され奉献されると伺っております。

また、さる五月、「大國さま」(出雲大社)では六十年に一度といわれる国宝「大社づくり」ご本殿のお屋根檜皮葺替を竣え、「遷座祭」が執り行われました。

斯く同じ年に日本の尊い神々の遷宮という巡りのこの慶事に触れ、現代に繋がる古代の息吹きに思いを馳せながら、変化する今、将来を正しく見据える機会になれば幸いです。

皆様のご健勝とご多幸を心からお祈り申し上げます。

高良山くんち日程

高良山くんち(おくんち)は高良大社の年間祭事の中で最も大きなお祭りです。十月九日の例大祭に始まり、十日の崇敬会大祭、十一日の観月祭まで、例年三日間の日程で行われます。

おくんちの期間中には久留米喜多流の謡曲や高良山十景舞、表千家不白流による献茶式、日向ひよつとこ踊り、嵯峨御流生け花展、さらに観月祭の催事まで含めると実に多くの奉納行事があります。また、おくんち期間の前夜には神賑行事として鼓舞、和太鼓、民謡、獅子舞、御井町風流、さつき盆裁展、小笠原流弓馬術同門会による弓道百々手式と弓道大会、剣道大会や各種武道の演武などもおくんちを奉祝して行われます。

高良山くんちの「くんち」とは、「おくんち(御九日・お供日)」の訛りで、かつては旧暦九月九日に行われていたお祭りです。この日は重陽の節句であり、我が国では古くからこれを祝う風習があります。神社にとりましてこの日は、高良大社の神様が御鎮座されたと伝わる吉日です。高良山で秋の大祭といえば、古くは旧暦の十月に行われていた御神幸祭でしたが、大



奉納 百々手式 (小笠原流弓馬術同門会)

規模すぎて途絶えがちになり、江戸時代には時期的に近い旧暦の九月九日のおくんちが例祭となつたといわれています。当時はこの日に藩主である有馬家の参拝が行われ、農具市が立ち多くの参詣者で賑わつたといえます。長い歴史の中で様々な変遷を辿り、今に受け継がれる高良山くんち。私たちは、先人から伝わる文化・伝統を大切に、祖先たちが家族の健康、そして子孫の繁栄を祈って参詣を重ねてきた思いを後世に語り伝えていきたいものです。

くんち日程

◆ 十月九日(水)

神生祭 午前零時
例大祭 午前十時三十分
謡曲奉納 久留米喜多流奉賛会
舞奉納 高良山十景舞保存会



◆ 十月十日(木)

崇敬会大祭 午前十時三十分
献茶式・野点拝服席
表千家不白流九州支部



野点 拝服席

◆ 十月十二日(金)

第二十三回 観月祭 午後六時



久遠太鼓

観月祭奉納行事

本殿

- 午後六時三十分～七時三十分
- 仕舞 久留米喜多流奉賛会
- 箏曲 中村雅楽芙美社中
- 琵琶 筑前琵琶保存会
- 詩吟 錦城流 加藤城勲師
- 二胡 鄧 昱勝氏

境内特設舞台

- 午後七時四十分～九時
- 久遠太鼓 立正佼成会久留米教会
- 久留米にわか 久留米にわか保存会
- 柳川日吉太鼓 日吉ぎんなん社中
- 柳川日吉神社 柳川日吉神社
- 雅楽 高良大社雅楽同好会
- 御茶席奉仕 表千家北村宗孝社中



柳川日吉太鼓

神賑行事

九月二十三日(月)

第十三回高良山剣道大会
境内特設剣道場



小学生から高校生の剣士達が熟戦を繰り広げます

九月二十七日(金)～二十九日(日)

第十四回さつき盆栽秋季展
さつき盆栽趣味の会
中門内展示場

十月六日(日)

鼓舞
御井鼓舞



御井鼓舞

民謡奉納

日本民謡協会大川支部
和太鼓奉納
筑水高校太鼓同好会
境内特設舞台

十月九日(水)～十二日(金)

第十四回嵯峨御流生け花展
華道嵯峨御流諸岡社中
中門内展示場



嵯峨御流生け花展

十月十日(木)

日向ひよつとこ踊り
ときめき会
境内特設舞台



軽妙な手足の捌き

十月十三日(日)

古武道棒術

神影流心気道棒術

獅子舞・風流

高良山同志会

御井町風流保存会

空手奉納演武

新極真会佐賀筑後支部

久留米道場

境内特設舞台



空手演武

十月十四日(月)

第四十三回高良山弓道大会・百々手式
境内特設弓道場



弓道大会

祭事のご案内 〔十月中旬〜十二月〕

◎大学稻荷神社秋季大祭

十月十六日

高良山中腹に鎮座する筑後地区で一番大きな稻荷社の秋祭り、大勢の参拝者参列のもと斎行されます。

◎山川招魂社秋季大祭

十月二十日

旧久留米領内出身者をはじめ祖国の為に戦に斃れた英霊をお祀りする山川招魂社にて秋季大祭が斎行されます。



山川招魂社

◎明治祭

十一月三日

我が国の近代化を導かれた明治天皇の御聖徳を仰ぎ皇室国家の繁栄を祈念致します。

◎撰末社例祭 十一月十三日
境内に鎮座する三社、高良山内外に鎮座する六社の例祭を斎行致します。

◎七五三祝祭 十一月十五日
月次祭に併せ、今年七五三祝を迎えるお子様の健やかな成長をお祈り致します。



◎新嘗祭

十一月二十三日



献米使とともに参進

宮中および全国神社で行われる新穀感謝祭です。高良大社では、献米世話人のご協力により市内・近郷各地から新米が奉納され、豊かな総りへの感謝を申し上げます。

◎もみじ狩り 十一月二十四日
高良山中腹の紅葉谷で行われる秋の恒例行事です。御井校区まちづくり振興会・高良山の森と環境を守る会が中心となり、催事を盛り上げ多くの方で賑わいます。



紅葉谷

◎鎮火祭

十二月一日

日々の生活に不可欠な火の恵みに感謝し、同時に火による災いがないように祈るお祭りです。祭典後は、消防署の指導の下、職員のみ消防訓練、救命訓練を実施します。

◎大学稻荷神社冬籠祭

十二月八日

高良山中腹、大学稻荷神社にて参拝者が祈願を込めたご神木をお焚き上げし、その成就をお祈り致します。



冬籠祭（ご神木お焚き上げ）

◎煤払祭

十二月二十二日

社殿での祭典後、宮司以下神職が笹箒にて社殿の煤を払い、新しい年を迎える準備を致します。

◎天長祭

十二月二十三日

天皇陛下の誕生日にあたり聖寿の万歳、皇室の長久と国家の繁栄を祈念致します。

◎古神札焼納祭

十二月三十日

この一年お護りいただいた神札・お守りに感謝申し上げ焼納する神事です。

◎年越大祓式・除夜祭

十二月三十一日

大祓式は、日々の生活の中知らず識らずに犯した罪穢れを、人形に移して心身を祓い清める神事です。また今年最後の祭典である除夜祭では、行く年に感謝し、佳き年を迎えられるように祈念致します。

第四十二回 高良山書道展

恒例の高良山書道展・書道上達祈願祭・表彰式が七月二十日に
行われました。 審査委員長（久留米市立南薫小学校長）原 淳二 先生



高良大社宮司賞
小学一年
中島 颯汰

リズムカルな筆遣いで、紙面一杯に見事な満月の「つき」を表現した作品です。作品を見てみると、書いている姿が想像され、何かしら癒されるような気持ちにもなります。応募総数683点の頂きにふさわしい作品です。



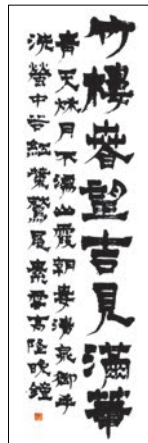
高良山の景色を詠んだ、高良山十景詩の一節を、いわゆる調和体として仕上げられています。確かな筆力で、全体の構成を考へながら、文字の大小・線の強弱、さらには濁筆の妙を加えた素晴らしい作品です。さらなる飛躍を期待します。

高良大社崇敬会会長賞
高校三年
是永 早紀



福岡県知事賞
小学六年
古庄 恵

正確な筆遣いで、紙面の隅々まで書き手の配りが感じられる作品です。特に、文字の配置が素晴らしく、互いの字勢が重ならないように仕上がっています。そのため、文字の大ききもありながら、すっきりとした作品になっています。小学校六カ年の集大成ができました。



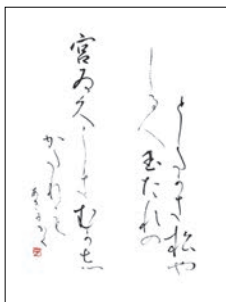
高良山十景詩の一節を、隸書体金豊で、書き上げた作品です。「竹樓春望、吉見 満華」は、これまで、中学生の課題としてなじめの詩文です。一行目を大きく書き、紙面の工夫がされています。今後、様々な書法にチャレンジを。

福岡県議会議長賞
高校三年
福田 萌菜



久留米市長賞
中学三年
古賀 茅乃

修練された筆法で、線の切れ味、さらには線の大小と行書作品として、申し分のない作品です。課題は、文字の画数にかなりの違いがありますが、そのことを感じさせない字配りもできています。



久留米市長賞
高校三年
井寺 晃子

高良山の情景を仮名の作品で表現した作品です。何と云っても仮名の場合、紙面の構成（ちらし）と線の切れが大切になってきます。墨の濃淡も考慮しながら、文字の大小など、最後まで丁寧な筆遣いで、すっきりとまとめることができました。今後、大きな作品にも挑戦を。



久留米市議会議長賞
小学四年
永江 咲好

画数が少なく、大変難しい課題ですが、一画一画丁寧に筆を動かし、文字の大小を考えて、紙面一杯に表現された素晴らしい作品です。とても重厚で暖かみのある線質で、日頃の練習の成果がよく現れています。



久留米市議会議長賞
中学二年
江口 菜央

伸びやかな線質で、温かきを感じる作品です。縦画が目にとまる課題ですが、長さに気を配りながら大変おさまりのよい作品に仕上がっています。特にそれぞれの文字に空間を持たせながら、字形を整えるなど、よく工夫をしています。



西日本新聞社賞
小学五年
江頭 萌瞳

力強い筆遣いで、迫力のある作品に仕上がっています。紙面一杯を使つての表現ですが、そのための修練は大変なものがあつたのではと想像します。名前まで、しっかりと書かれ、その人柄が伝わってくるようです。



上海堂賞
小学三年
鶴元 葵

「ドッカーリと大地に根を下ろした「くすの木」を想像します。力強い筆遣いで、紙面一杯に表現することが出来ました。左右の文字がぶつからないように、字形も工夫されています。名前も元気に書くことができました。



硯山賞
中学一年
古賀 ことみ

澄み切った線質で、見る人ですがすがしい感じを与えてくれます。「止め・はね・はらい」等、すべてにおいて、パーフェクトな筆遣いができています。大変構成が難しい課題でしたが、左右の文字がぶつからないように、仕上がっています。



審査委員長賞
小学二年
江口 ゆめ

ひらがな三文字の課題で、どうしても縦長になる文字ばかりで、作品に仕上げるのは、大変であつたらうと想像します。筆の弾力を使つて、無理のない筆遣いが出来ています。名前もとてもいいに書いています。

高良大社賞

- 小一 田中みほ 幼稚園 浅川愛香
 - 小二 大住采久莉 小二 廣津華音
 - 小三 谷川莉奈 小三 堤 奏来
 - 小四 中村果穂 小四 古賀那奈
 - 小五 錦織 颯 小五 井上裕登
 - 小六 中島卯咲 小六 大橋一徹
 - 中一 江口真由 中一 徳永 彩
 - 中二 金納光秀 中二 金子実桜
 - 中三 安部朱音 中三 島添将希
 - 高一 宮原華保 高二 永瀬綾音
 - 高三 小柳澄江 高三 内田有紀
- 以上三十四名が上位各賞を受賞されました。

兼務社紹介

天満神社（野口）

御祭神 菅原道真公

鎮座地 久留米市山川野口二八一三番地

天満神社は山川野口地区の氏神としてお祀りされてきました。

創建は不明ですが、古くは高良大社祭神の神裔神代氏の館の前に高良大明神の武器を納め、祖神三柱（高良大明神・大祝美濃理麻呂・神代良統）をお祀りし地主宮として創建されたのが元と伝えていきます。いつの頃から御祭神も変わります。天満神社となりました。

夏の祭典には氏子の方々が家族の衣服を持参し神前にて袂を受け無事息災健康を祈る深い信仰があります。



天満神社（野口）

安居野天満神社

御祭神 菅原道真公

鎮座地 久留米市山川安居野二〇九四番一

安居野天満神社は享保三年創建され、後に享保十九年七月十二日再興され、同年冬に新たに太宰府の地より天神像が寂門坊権律師良珠によって開眼され勧請されたと伝えます。

一時期は現在の山川町高良御子神社境内に遷座されましたが、昭和二十六年十一月に氏子さんの希望により現在の地へとお鎮まりになりました。

境内には水天宮と八大龍王もお祀りされ農耕に必要な水雨の信仰を伝えていきます。



安居野天満神社

高良山の信仰（六）

えびすさん

釣り竿に鯛をお持ちのニコニコ顔のえびすさん。商売繁盛・大漁の神様としてご存じの方は多いと思います。

恵比須・恵比寿・恵美酒・戎夷・蛭子・いろいろな字があり、神社の祭神では事代主命・蛭子神・小彦名神・彦火火出見尊の神様方をえびすさまとしてお祀りしています。

又、鯨や海豚さらに海からの漂着物までをもえびすと称することがありました。

えびすさんは遠くからいらっしやる渡来・漂着の神、時折いらっしやる寄り神の信仰があり、それを物語るのが、海底から拾い取った石や流れ着いた石をご神体としてお祀りされている漁村が今でもあることです。

えびす講という祭事が民間にあり正月と十月の二十日等、関東では二十日、関西では十日が多いようです。

ここに関東北部の例を挙げますと正月にえびすさんが出稼ぎに立たれ、十月にお帰りになられるとして、正月は朝にお供えをし

てお送り申し上げ、十月は夕方お迎えをしてお風呂を勧め、お供えしお疲れを労りおもてなしを致します。つまり年中家にはおいででは無いということです。祭事も北陸に伝わる田の神の祭である饗の祭事に共通します。

えびす講は商家漁師だけでは無く農家でも多く行われます。

こうしてみますとえびすさんはあらゆる職業を守護し福をもたらす神様なのです。

さて高良山には市恵比須社があり、夫婦のえびすさんが祀られています。『高良玉垂宮神秘書』によれば高良大神が山麓（府中）で市を立てられ、肥後・肥前・筑前・豊後の順に市を立てられたと伝えます、その後、府中の市の守護神として市恵比須が祀られ、筑後各地の市ではこの市恵比須を勧請して市を開くのが例であり、勧請には高良山大祝（神主の長上）の認可が絶対必要であったと伝えます。

商都久留米の守り神ともいえる市恵比須さんにどうぞお参り下さい。

権禰宜 松本長人

高良大社崇敬会だより

平成二十五年度事業の進捗状況報告について

去る三月に開催された高良大社崇敬会平成二十五年度総会に於いて、御承認を戴きました今年度事業計画の進捗状況を御報告申し上げます。

①山内看板の作製

山麓の一の鳥居と本殿前中門に年間恒例祭典をお知らせする看板を作製中です。(現在は手書きの看板を掲出してありますが、これを機にお祭りをわかりやすく、確実に広報できるものと致します)

②高良山マップの作成

御社殿をはじめ神籠石や金明竹などの文化史跡またウォーキングに必要な山内人道などをマップにして持ち歩けるようなものを現在作成中です。

③第三回企画旅行

去る五月八日に日帰りにて山口県住吉神社正式参拝ほか研修を行いました。(詳細については、第二十五号を参照下さい)

④書道展・写真展への協賛

第四十二回高良山書道展(開催済み)と第二回高良山写真展(十月下旬から開催予定)に「高良大社崇敬会会長賞」を贈呈・顕彰します。



石積み復旧



書道展 作品展示

⑤旧宮司邸周辺参道石積み工事

昨年計画するものの七月の北部九州を襲った豪雨のため今年度に実施されましたが、お蔭様にて石積みも元通りに復旧して参道を通る参拝者を毎日お迎え致しております。

第六十二回神宮式年遷宮齋行近づく 第四回高良大社崇敬会企画研修旅行のお知らせ

来春に計画しております『第四回高良大社崇敬会企画研修旅行』の概要を御報告致します。

第一回 伊勢神宮・熱田神宮

第二回 宇佐神宮

第三回 住吉神社 と三回の

企画研修旅行を実施して参りました。来春は三年に一度の伊勢参宮旅行を計画することと相成りました。

天皇陛下下の御裁許を賜り伊勢神宮に於いて、来る十月二日(水)には内宮、五日(土)には外宮、そして百二十五社のすべての御遷宮祭(神様の御引越し)が斎行されます。外宮では、来年三月末日まで新旧の御正宮が並んでいるとの由を承り、高良大社崇敬会でも来春に第四回の企画研修旅行を伊勢神宮に御垣内正式参拝をさせて戴く予定です。

詳細につきましては、次号(第



前回の伊勢研修旅行(平成23年)

高良大社崇敬会主催 第4回企画研修旅行行程

〔1日目〕	久留米 → 福岡空港 → 中部国際空港 → エアポートライン・津なぎさまち → (昼食) → → 伊勢神宮(外宮・せんぐう館拝観) → ホテル宿泊
〔2日目〕	ホテル → 伊勢神宮(内宮・御垣内正式参拝) → おかげ横丁 → (昼食) → 観光若しくは神社参拝 → → 中部国際空港 → 福岡空港 → 久留米

上記の行程は現時点でのものであり、その後改訂される場合がありますので御了承下さい。

二十七号)の紙面にて御報告及び募集を行います。航空機で福岡空港とセントレア中部国際空港を往復、伊勢神宮(御神楽奉納、せんぐう館拝観と御垣内正式参拝)、伊勢志摩方面のホテル宿泊そして研修親睦を基本として計画し、崇敬会の役員会で審議を行い、広く募集致しますので、御近所お友達をお誘い合わせの上、多数御参加を戴きますよう、心よりお待ちしております。

伊勢神宮式年遷宮

遷御の儀 十月二日 内宮
十月五日 外宮

神宮

「お伊勢さん」「伊勢神宮」の呼び名で親しまれている「神宮」は、皇室の祖先神「天照大御神」をおまつりする皇大神宮(内宮)、「豊受大御神」をおまつりする「豊受大神宮」(外宮)を中心に百二十五のお社から成り立っています。

御鎮座以来悠久二千年、皇室・国家の繁栄と国民の幸せを祈って、年間延べ千数百回に及ぶおまつりが繰り返されてきています。

式年遷宮

二十一年に一度、宮処(御敷地)を改め、古例のままに御社殿や神宝をはじめ、一切を一新して大御神様の新殿へのお遷り(遷御)を仰ぐ式年遷宮。

天武天皇のお定めにより持統天皇の御代(持統天皇四年・西暦六九三年)に初めて執り行われました。以来、我が国にとって第一の重事と重んぜられ、戦前までは、「公の儀式」として、国を挙げて行われてきました。

これまでに六十一回千三百年という、世界でも例を見ない、かけがえのない歴史と伝統を有しています。

全てにわたって清らかに装いを改め整え、神々はいよいよ若やぎ、国も人も共に若返る…
「式年遷宮」は、主旨・構成・規模において壮観類を見ない、晴れやかな民族の一大祭典です。

そして、二十一年に一度の御社殿や神宝類の全てを古式のままに一新する式年遷宮は、我が国の伝統文化の根源を伝え、技術の保存継承にも大きな役割を果たしています。

遷宮のおまつり

今回の第六十二回式年遷宮は、平成十七年の「山口祭」(御用材を伐り出すにあたり山の神に安全を祈る祭)に始まり、八年間がわたって三十に及ぶ祭典・行事が行われてきました。中でも主要な祭典については、日時等を天皇陛下にお定めいただきます。

いよいよ、式年遷宮の最重要儀である「遷御」の儀が、皇大神宮(内宮)では 十月二日、そして豊受大神宮(外宮)では五日に齋行されます。

(神宮司庁広報より)

遷宮奉賛の御礼

今回の第六十二回神宮式年遷宮を迎えるにあたり、全国の神社同様、高良大社でも平成十九年十二月より社頭にて広くご参拝・ご崇敬の皆様にご奉賛を仰ぎ、

また兼務神社総代・世話役各位を通じて氏子・地元自治会の皆様にご奉賛をいただき、伊勢神宮式年遷宮奉賛会にお取次ぎを致しました。

「遷宮」のご盛儀をお祝い申し上げますと共、ご奉賛を賜りました皆様に改めて厚く御礼を申し上げます。

参宮旅行

高良大社崇敬会では、明平成二十六年春に、遷御間もない伊勢神宮への参拝旅行を計画しております。詳細につきましては、改めてご案内申し上げますが、皆様の奮ってのご参加を心よりお待ちしております。



内宮御正宮 (神宮司庁より)

鎮守の杜

●この夏の厳しい暑さを過ぎ、爽やかな秋を迎えました。皆様に社報「たまたれ」二十六号をお届け致します。

●七月の末に木曾御嶽山夏山登拝後に御神縁により富士山へ十数年ぶりに足を運びました。世界文化遺産効果でしょうか？お山は暴風雨にも関わらず、国の内外より色彩豊かな服装の岳メン・山ガールで大賑わい。ワンちゃんまでいます。しかし白衣を着た方を見ることは出来ませんでした。信仰の山、三國第一の霊峯富士山として白衣姿の登拝者が再び増えることを祈ります。参明藤開山浅間大神守給幸給

●我が住居の社宅にはエアコンがありません。今まで暑さに堪え忍び暮らしてきましたがこの夏の暑さは尋常ではありませんでした。その中唯一の涼具扇風機が連日のフル活動に疲れたのか購入一年足らずで故障しました。熱中症なるものと闘う日々が続きました。はたしてこの社報が発行される頃には元気な姿で皆様にお会いできるのでしょうか、心配で居りました。(長)

「たまたれ」 通巻二十六号

平成二十五年十月一日発行

発行者／高良大社社務所

福岡県久留米市御井町一番地

電話〇九四二一四三二四八九三

FAX〇九四二一四三二四九三六